

衆議院

大蔵委員会議録第二十九号

昭和三十一年四月十七日(火曜日)

午前十一時二十三分開議

出席委員

委員長

松原喜之次君

英治君

理事黒金

泰美君

理事小山

長規君

理事高見

三郎君

理事藤枝

泉介君

理事石村

英雄君

理事春日

一幸君

正房君

奥村又十郎君

高藏君

杉浦

武雄君

竹内

俊吉君

内藤

友明君

中山

榮一君

夏堀源三郎君

前田房之助君

有馬

輝武君

重次君

廣文君

平岡忠次郎君

横山

利秋君

横錢

重吉君

石野

久男君

出席國務大臣

大蔵大臣

一萬田尚登君

出席政府委員

大蔵事務官

(主税局長)

(銀行事務官)

委員外の出席者

渡邊喜久造君

東條猛猪君

岸本晋君

椎木文也君

本日の会議に付した委員

参考人出頭要求に関する件

国家公務員共済組合法の一部を改正する法律案(内閣提出第一四七号)(參議院送付)

関税法等の一部を改正する法律案(内閣提出第一一七号)(參議院送付)

金融制度調査会設置法案(内閣提出第七六号)

同月十六日

委員平田ヒデ君辞任につき、その補欠として横路節雄君が議長の指名で

委員に選任された。

四月十六日

租税特別措置法の一部を改正する法律案(小林政夫君外五名提出、參法第五号)(予)

の審査を本委員会に付託された。

同月十三日

軍用水道を米子市に移管の陳情書(米子市長野坂寛治外一名)(第五四一号)

租税特別措置法等の一部改正に関する陳情書(東京都中央区日本橋兜町長小房厚之助)(第五四二号)

弦楽器用牛腸製ガット弦等に対する物品税撤廃に関する陳情書(大阪市東住吉区矢田住道町九百十番地片山幸次郎)(第五五九号)

在外資産の処理促進に関する陳情書(徳島市議会議長上原治太郎)(第五九五号)

を本委員会に参考送付された。

最初に伺いたいのは、この法律を改正する必要があるかないか

組合法の一部改正に関する法律案について御質問いたします。

○横山委員 それでは国家公務員共済

組合法の一部改正に関する法律案について御質問いたします。

最初に伺いたいのは、この法律を改

正する必要があるかないか

のかという点であります。それと申しま

すのは、過般共済組合議會が答申をい

たしましたその答申内容を熟読いたし

ますと、「明らかにこれは改正する必要は

ないのではないか」という御質問

ではないか」という大前提に立つておるよう思われるのであります。

〔委員長退席、石村委員長代理着

席〕

つまりこの答申の一項の「今回の

健康保険法改正案における一部負担が、

目的とするものであることは、否み難い事実と認められる。」「共済組合に

おける短期給付経済は現在均衡を得て

おり、また從来その支出増は、原則とし

て、保険料率の引上げによって賄つて

この改正をもって赤字対策とは見ており

ません。現在收支の均衡を得ております。

せん健康保険制度を将来健全に発展させていく、そのためいろいろな施

策を講じておるわけでございますが、

その一つといたしまして、今回国会に

御提案申し上げました程度の一部負担

制はやむを得ない、こういうことで実

施いたしておるわけでございます。從

いまして、政府管掌健康保険の赤字克

服、それだけの意味ではないという見

解をとつておるわけでございます。こ

のことは、今回の健康保険法の改正に

おきましても、単に政府管掌の健康保

険ばかりでなく、現在赤字でございま

せん組合管掌の健康保険にも同じよ

う一部負担制を実施するようなことを

いたしております。この点についてみ

ても明日だらうと思ひます。共済組合

にいたしましても、なるほど現在は赤

字でございませんが、やはり社会保

制度の健全なる発達をはかるための一

部負担制、そういう意味で社会保険

制度全般について行われることであります

から、共済組合についてもこれを実

施いたそ、こういう気持でございま

す。なお制度上の問題として申します

と、共済組合も、現在は法制上健康保

険の被保険者といふ建前をとられてお

ります。従いまして、健康保険法の適

用を受ける方々に対し全般的に一部

負担制を今回拡充されることになりま

すと、同じ健康保険の被保険者であ

ります共済組合のものについても、同じ

方針をやはりとらざるを得ない、かよ

うに相なるわけであります。

○横山委員 赤字対策のみではない。
確かに答申案の中にも、政府側委員は
この点に同調しなかつたという文字が
ござりますが、しかしながら政府側委員以外
の全員が「健康保険法改正案における
一部負担が、主として政府管掌健康保
険の赤字補填を目的とするものである
ことは、否み難い事實と認められる。」
こういうふうに認めているわけであり
ます。政府が、いや、そうではございま
せん、これは赤字補てんを目的とする
ものではございませんと言つても——
客観的な判断をする全部の人がそうだ
と言いつつおるのに、政府が、いや、
言うように、そうではない、共済組合
の健全なる発展をはかるためといふな
らば、今日共済組合独自の立場におい
て不健全な状態があるのかどうか、そ
の不健全な点を健全にする、それがこ
の措置であるというのか、その点を一
つ明確にしてもらいたい。

○横山委員 全体の収支のバランスをとる、そのために黒字のところはもつと金を出せ、こういうことに相なるわけですが、収支のバランスだけでいつたら、それぞれ独立しておられます共済組合は、短期給付においては黒字であって、しかも従来その支出増についでは、原則として健康保険料の引き上げによってまかなかって参ったものであり、そして今収支の状況においては黒字であるのにかかわらず、片方が赤字だからそのおつき合いをしろといつて、そして全体的なバランスというのでは、これは当を得ない議論だと思うのです。その点についていま一度明確に答えて下さ。

○岸本説明員 単純なる赤字対策としてこの一部負担制を取り上げたのはもちろんないわけであります。現在の日本の医療保険制度における一つの給付水準といいますか、高度の給付水準を維持しながらも、しかもこの保険制度を健全に運営していくう、そういう意味で取り上げられた制度でございます。そういう意味で、單に現在赤字である、なるほど政府管掌の健康保険は赤字でござりますが、単なる赤字克服だけという意味ではない、つまり社会保険制度、医療保険制度の全般を将来とも合理的に発展させていく、こういう意味で取り上げたわけです。従いまして、共済組合の黒字をほのかの赤字に持っていくってバランスをとらせれる、そういう意味では毛頭ないわけであります。

の政府側を除いたすべての委員は、何と言おうと、それは赤字補てんを目的とするものであることはいなみがたい事実であると言つておる。あなたは出席された政府側委員と少し見解が異なり、単なる赤字ではないと言つて、赤字という問題も多少は含めていらっしゃるわけありますが、私の聞いているのは、かりにあなたの意見であるとしても、それじゃ一体どういうことかと言うと、あなたはさわめて抽象的に、医療保険制度を合理的にするためだ、こうおっしゃるわけです。そこでどうぞだいいたしましたら、もう少し具体的に明快に答えてもらいたいところなんです。健康保険法並びにこの共済組合制度はかかる政府のやり方によつてどうして合理的になるのかという点を、明快に一つ答えてもらいたい。

触れてここで議論しようとは、私の必ずしも望んでおりません。しかしながらこの共済組合法の改正に当つて健康保険と同様しなければならぬ理由といふものには、どういふところにあるが、この共済組合法を審議するに当つて非常に必要なることであり、従つてどうしてもこれが赤字補てんを目的とするものであるということは、いかがたい事実だ。世間一般は、また審議会の委員は、これが赤字補てんを目的とするものであるという点は、いかがたい事実だ。しかし客観的にいつてゐるのだが、あなたたちはそうではないと言つてゐる。しからば、そうでないならば、そのうでない理由といふものをもう少し明確にして、共済組合法をかくかくのごとき理由で右へならえをしなければならないだという点を、条項をあげて明確にしてもらいたい、こう言つてゐるのです。

しては、この審議会でも取り上げておりますが、手続上の問題といったしまして、共済組合だけ違った制度をとるといふことは、基金とかあるいは保健医に対する関係でむずかしいのではない、か、こういう手続上のことも審議会で取り上げておられます。そうした意見も参考いたしまして、共済組合に今回の一歩負担制を実施した、こういうことでござります。

○横山委員 第一に、一部負担制がほかでもとられておるから、共済組合法においても必要である。第二番目に、手続上はかの方があつておるのにかかわらず、これをやらないと若医者さんその他のこところでどんがらがる、あなたのねつしゃるのはこの二つの理由でございます。

○岸本説明員 さようでございます。

○横山委員 わかりました。そこで、この一部負担制が必要だという問題であります。従来とも健康保険法の経済については、原則として保険料の引き上げによってまかない、しかも均衡を得得てきたのが従来の方向であります。今この方向を逆転をさせて、一部負担制にして被保険者の負担を増すということは、従来の共済組合法の立場と根本的に変わったことになる。ほかの方が一部負担制をやっておるから、どちらの方もやらなければならぬと、どうしてもどう言ひ切られるものであるかどうか。また審議会で、一部負担制を導入することについては賛成をしがたいといつておられるけれども、審議会も、しならば、組合管掌の健康保険、船員保険、その他の保険が全部これに同調するならば、おつき合いもやむを得な

○岸本説明員 一部負担制を今回実施いたしておりますのは、これと健康保険、それから市町村の共済組合も、別途地方行政委員会に出ておる法案によりて実施いたそりうことになります。私学共済組合についても同じであります。そのほか船員保険法につきましては、一部負担制の内容は若干違うのであります。従来船員保険法になかった一部負担制を導入する措置がとられております。また雇い健保、これはまた若干性格が違いますが、これにはとられていません。

○横山委員 しかしながら、この審議会のいっておりますことは、全部の保険がこれに同調するならばやむを得ないといつておるわけであります。日雇いの方はまあ黒字であります。黒字だから、去年も改正をいたしましたが、ことしも改正の提案がなされておるわけであります。あなたのおっしゃるところによれば、ほかの方は一部はこれを導入しておる、一部は導入してない、こういう実情である。そういう点であるならば、審議会の言うように全部がこれに右へならへをするならば、も、しかしながら、片一方だけ導入をして、片一方は導入をしない。そういう状況の中で、審議会の答申を無視して、今ことに一部負担制をどうしても導人をしなければならぬという理由が、今日の共済組合法の運営下においては私は見当らないと信ずるのであります。

○岸本説明員 第一点に、審議会の答申におきまして、組合管掌健康保険その他の他がこれに同調するならばという趣旨をしなければやっていけないという趣旨がありました。この点御指摘になつた。ほかは全部やつていらないじゃないかという御質問だったと思います。この審議会の答申の内幕のようになりますが、ここに書いてございますのは、やはり健康保険であるとか共済組合であるとか、こうした大どころの、つまり社会保険の中で非常に大勢を占めているところがこれに同調するならば、こういう意味でこれは書かれておるわけでございます。性格の違ったほかの保険のことは、ここでは触れてないといふ建前でございます。

は、今直ちに見通しを樹て難い。もし選付が困難であるならば、附加給付などのような形で、別途実質的に組合員に還元する方法を講すべきである。」従つて患者さんから、「あなた今度一部負担だから、錢十円が二十円か三十円か、とにかく出せと言つて取り上げておいて、今度はまた患者さんに、この間もらった金は返すと言つて返すことには相なるのであります。これほどばかりかしい、わざらわしい手数をしてまでもおつき合いをしなければならぬものであるが、それともあなたの方は、取った錢をもう本人に返さぬといふのであるが、その点、取った錢の行方にについて、政府の考え方を一つ明確にしてほし。」

○岸本説明員 先ほど申し上げましたように、共済組合に健康保険並みの一部負担制をやる、これは大体組合管掌の健康保険に準じた考え方をいたしております。やはりそれと同じような措置を、共済組合についてもやりたい、かのように考えております。

○横山委員 審議の明確になる意味からいって、どういうふうにそれがなるのか、共済組合法の改正でとつた錢は、どういうふうにそれを還付をしていく方向になるのか、ないしは附加給付になるのか、政府の立場を明確にしてほしい。十円、二十円、三十円とどんどん患者さんから取り上げた錢は、どこにいくのか、それを明確に、この立場を明らかにしてほし。

○岸本説明員 一部負担で本人が支払いますと、それだけ組合の余裕財源が

どういう処理をするか、これは今回の法案で、負担金の払い戻しと他の措置で大蔵大臣の定めるもの、こういうふうに書いてございます。原則としては、組合管掌の健康保険並みに、本人に還付するというのが一応筋が通つておるわけでございますが、ただいろいろ、共済組合は民間の組合関係の健康保険と非常に違いまして、全国的に散在いたしておりますから、必ずしもそれがやり切れない場合もあるいはあるかと存じますが、その場合には、あるいは掛け率を引き下げる、あるいは附加給付とか、いろいろな方法があるうかと思います。しかしながら、その中のど的方法をとるかということについては、これは共済組合の内部でいろいろ不均衡が出て困りますので、各組合に徹底をして、つまり最大公約数として実施できる、こういうような案を考えたいと存じておるわけでござります。

た結果においては、もう一度新たなめんどうが出てきます。取り上げたところへもう一ぺん返すというばかれないことをする必要が一体本質的であることあります。また病人から取り上げて健康な人に錢を分ける必要があるであります。また今どうしてやらなければならぬ附加給付が現にあって、被保険者全体からこういう附加給付を作つてほしいという切実の懸案の問題があるであります。また今どうしての点についても、今日首肯し得る理論というものはないのであります。そういたしますならば、結局健康保険法を変えたから、健康保険法の赤字を埋めるために変えたんだから、こちらもついでおつき合いをしてくれということに尽きるようであります。しかりとするならば、健康保険法と共済組合法とは一緒につき合つてもやらなければなりませんという問題があり得るのかどう、最初の問題にもう一ぺん帰つてくる。しかも片一方、日雇い労働者の健康保険については、これはもう今なおやられないので、そういうのであります。しかも異学があるからこいつはまだまだ、こういつておるのであります。まさに宙ぶらりんになつて、今回の共済組合法の改正については、とても論理が筋が通つていない、どういうふうに私どもは考え方を得ないのであります。私が、私のどういう見解について、あなたは間違つておるならば間違つておると、明確に一つ反論をしてほしい。
○岸本説明員 先ほど申し上げましたように、今回共済組合法に一部負担制を導入いたしますのは、やはり健康保険制度全般にそういう制度をとられるということが理由でございます。(大)

正方葉子(上)

○横山委員いや、大臣に今まで聞かなかったのは、少し岸本さんとの質疑応答を聞いておつてもらって、それが大臣に聞かうと思つたからであります。

す。今私が申し上げておる点は、大臣、おわかりになつたのではないかな。
あまりどうこう言ひきがいことにいついては、大臣は御存じない点が多いと思ひますから、こまかい点は申し上げませぬけれども、今世間で非常に問題になつておりますこの健保法の改正がなされたておいて、この共済組合の改正是なされておるわけであります。しかしそれをき合いをしなければならぬという理由はないのであります。なぜならば、第一にこの共済組合の経済は黒字であります。第二番目に、今岸本さんのお話によれば、この手続上の問題があるといふのだけれども、そちらの方のお医者さんの手續のわざらわしさをなくするために、新しい手續のわざらわしさといふものが、どこに二点も三點も生まれてきておるのであります。どつちの手續を解消するか、どつちの手續をうまくやるかということについては、やはりこれは筋を通して、今日までの共済組合法の原則といふものを通していくことの方が難がない、どういうふうに言わなければなりません。従つて大臣は、健康保険なしは——いや保険制度といふれば、ネコもしゃくしも一緒だと思っておられるかもしませんが、それぞれの財政的な独立の状況を保つておるのであります。ことに共済組合法をおつき合いで改正をせぬなら

めという理由はこうもなく、またそのおつき合いで改正したために、新しいいろんな問題が発生してばかりを見る。それは大臣、最後にはんこをおつきました。せっかく取り上げた錢をまたもとに返すということを考えられておるといふ、ばかばかしい話でありますから、これは大臣、最後にはんこをおつきましたとき、どういう気持で一体はんこをおつきになつたのか。ほかの話を聞いておつて、まあええと思つてはんことをお押しになつたのじやないかとも思いますが、一べん大臣から、改正の気持ちについて御答弁が願いたい。

○一萬田國務大臣 健康保険法の場合におきましては、とりあえずは赤字が出て赤字の対策、さらになつた今後の健保の発展のためとありますから、赤字がないのに、患者のあれでは、被保険者の一部負担をするというのは、どういうわけかということであります。が、私は、その点だけお取り上げになると、その点だけからはごもつともではないかと思うのであります。しかし、これはやはり社会保険といいますか、社会保障全体のあり方の問題にならないのではないかと考えるのであります。そういうふうな広い社会保険のあり方といふ点から見た場合に、共済組合においても、赤字がないからあるからといふことでなくして、一部負担をする、そうしてさらに保険の今後の充実発展をはかっていくということが十分考えられるのじやないかと考えております。なお十分御納得のいくよう、具体的な理由は政府委員から答弁させます。

○横山委員 やはり大臣はあまりよく御存じないようであります。大臣がこまかいことを御存じなければ、かえつて私は、常識的にあなたと質疑応

答がでてくると思うのであります。ほかの方は、赤字があるから、これを医者さんにやらせるか、患者にやらせるか、政府が負担をするかというんかなどいろいろの議論がある。それはそれで、あなたの言うように、患者さんにやるから、少しは負担してもらわなければならぬということは、私どもは反対ではあります、しかし、それは議論の余地として大いに議論がし得るのであります。ところが、こちらの方は黒字なんです。黒字のところへ今赤字の議論を持つてきてやるということ自体が、根本的に間違いがあるのであります。しかも健康保険法の改正と違って、こちらの方は患者さんからだけ取るのであります。今一番給料の入ってくるのが乏しい患者さん、生活に困っている患者さん、また政府も今後特別にめんどうを見てくれる患者さん、そういうところからだけ取るということに相なるわけでござります。しかも政府の原則、審議会の原則は、患者さんから取つた金銭はもう一ぺん患者さんに返してやると言つてゐるのです。おわかりになりますようか。一番苦しいところが、一部負担で患者さんから取つた金銭は、もう一ぺんあなたに返してやるから出してくれと言つてゐるのです。そういうところが常識的によつとおかしいじゃないかとお考えになりましたが、岸本さん、あまり耳打ちしないで……。

ただしかし、社会保険あるいはまたさらさらに広く社会保障全体のあり方といふものに関連してこの措置がとられてゐる、そういう意味においてこういろいろにやるべきだと考えております。
○横山委員 その社会保障全体ということになると、いきなりばやつとしてしまって、何を一体質問したらいいのか、私はよくわからぬような気持になるわけですが、結局これは、大臣、私の言うように、常識的に考へて、常識的に处置した方が妥当だと思うのです。おつき合いも確かに常識であります。健康保険法を改正したのがから、そのおつき合いにやるというのも常識であります。しかしながら、その常識を展開して参りました措置といふものが、患者さんから一部負担で取り上げて、もう一ぺん患者さんに返してやるから、患者さんはそう心配せぬでもいいじゃないかという議論でないと、患者さんを納得させるわけにはどうの状況の中ではいかぬと思いますが、そういう二重の手間をしなければおつき合いができるものであるかどうか、そういうことが考えられるのであります。先ほど岸本さんは、患者さんに返すか、あるいは健康な人々に集まつた錢をばらまくか、あるいは附加給付として特定の人にそれをやるか、いろいろな意見があるけれども、それは審議会におまかせしたいとおっしゃいましたが、審議会は、原則として本人に還付されべきが筋合いであると言つてゐるわけあります。審議会も、その前提として、こんなことはほんとうはやりたくねえと言つておるのであります。

しかりといたしましたれば、一番常識的に、そんなやどしいことをせぬでもいいじゃないか、現状のままでいいのではないかということを考へられるが、もう一度大臣に、そのすなおな感じ、もののあり方についてどうお考えにならるかといふことを聞きたい。もう一つは、かりにこの法律が通つて、審議会で金はどう使うかという場合に、健健康な人にやるか、患者さんにやるか、あるいはほかの特殊な附加給付をやるか、あなた自身としてどういうふうにお考えになるか、その点を一つお伺いしたい。

○岸本説明員 一萬田國務大臣 先ほどから御答弁をした通りでありまして、それ以上つけ加えるものもありません。お尋ねの点は、非常に具体的な点であるよりであります。従いまして、政府委員から十分答弁があると思うのであります。なお御納得のいくまで一つ御質問願いたいと考えております。

○岸本説明員 具体的に、最後の締めくくりにどういう措置をとるかといふお尋ねでありますから、本筋からいえれば払い込みの際一部負担金を本人に返すが筋合いであります。ただいろいろ事情を異にしている共済組合が三千近くございまして、その中で、一部負担は返してほしくない、附加給付でもほしいというようなものもあります。そういういろいろな各組合の意見の調整をいたしまして、また審議会の意見も尊重いたしまして、最大公約数で、皆さん御納得いただける措置をとりたいと考えております。

○横山委員 政府側としては、この法案はどうしても通してほしいというふうな意見に聞えるのであります。今日

本法案について採決の段階にあるわざわざあります。根本の健康保険法自体が参議院においてまだどうなるかわからぬことは、そのおつき合いの根本になつております健康保険法が、たなびいていま与党側から修正案が出ておるけれども、根本の健康保険法自体が参議院においてまだどうなるかわからぬといふような状況にあるわけであります。この点について、政府側としては、参議院においてまた修正がなされた場合における本法について工の態度をどうお考えになるかといふことである。聞くところによると、二十三日に共済組合審議会が行われるようになります。審議会は、この答申の中でも、「どうこう」と言つて居るわけではありません。なお本法に関する政府審議会として最もここに決定的な意見を述べがたい事情にある。ゆえに国提案題に際しては、その意のあるところをくみ、弾力性ある法文化を希望するところに、状況の推移いかんによつては、さらに意見を申達する予定であるから了承されたい。こう書いてあるわけでもあります。政府としては、この審議会を尊重して、さらに審議会がどこで言っておりますところの、状況の推移によってさらに意見を申達する余裕を持つて臨んでおられるものであるかどうかといふ二点をお伺いをいたしました。

を改正する法律案に対しまして、黒金泰美君外二十五名提出の修正案が委員長の手元まで提出されておりますので、これを印刷して諸君のお手元に配付いたしておきました。この際提出者より趣旨の説明を聴取いたします。黒金泰美君。

第八十四条の三の改正規定中「罰金」を「過料」に改め、同条の改正規定の次に次のように加える。

ます。よって両法律案に対する質疑は
これにて終了いたしました。

案並びに黒金泰美君外二十五名提出の修正案を一括して討論に付します。横山利秋君。

であります。審議会は、この答申の中でも、どういふことを言つてゐるわけであります。なお本法に関する政府審議会は、その最終決定までは相当の修正を加えられるとの見通しが伝えられ、本会としてもどこに決定的な意見を述べがたい事情にある。ゆえに国会提案に際しては、その意のあるところをくみ、弾力性ある法文化を要望するとともに、状況の推移いかんによつては、

分中「第八十四条の二第一項中」を
「第八十四条の二の見出し」を「報告書」
の微取、検査等に改め、同条第一項中
に、「医療機関」を「保険医
療機関若しくは保険薬局」に、「」を
「療養を行つた医療機関」を「療養所」
を行つた保険医療機関若しくは保険
薬局」に、」に、「又は当該職員」を
を「若しくは当該職員」に、「病院」
診療所、助産所若しくは施術所」
を「施設」に「又は当該職員」を
して当該医療機関の病院、診療所、
助産所若しくは施術所に立ち入り」
を「当該保険医療機関若しくは保険
薬局の開設者若しくは管理者、保険
医、保険薬剤師その他の従業者に對
し出頭を求め、若しくは当該職員を
して関係者に対し質問し、若しくは
当該保険医療機関若しくは保険薬局
につき設備若しくは」に、「前
項の規定により」の下に「質問し、
又は」を加え」を「立入検査」を
「質問又は検査」に改め」に、「質
問又は立入検査」を「質問又は檢
査」に改める。

第八十四条の三の改正規定中「罰金」を「過料」に改め、同条の改正規定の次に次のように加える。
第八十四条の四を削る。
附則第一条中「第八十四条の三の改正規定」の下に「、第八十四条の四を削る改正規定」を加える。

○横山委員 私は日本社会党を代表いたしまして、関税法等の一部を改正する法律案に賛成し、国家公務員共済組合法の一部を改正する法律案並びに本案に対する修正案に反対いたします。なぜならば本来国家公務員共済組合法の一部を改正する法律案は、先ほど述べたとおり質疑で明らかになりました通り、健康保険法の改悪によって起ったものであります。この健康保険法については、ただいまも参議院において審議をされておるわけでありますから、今や健康保険法に関する世論といつものはどううございまして、私も昨日某県においてお医者さんの会合で聞いてきたのでありますけれども、いかんせん、この社会保障の充実という問題について、昨年の総選挙の際においても、保守と革新とを問わず、すべての候補者もすべての政党の人も、との問題について強調いたしたところであります。かかるにもかかわらず、その先頭に立った鳩山内閣が、今日いすくんを國いたしまして、片や窮乏に泣く病人に、片や医師に、そうして政府はほんとうに納得のいかなところであります。その健康保険法の改悪に右へならえをいたしまして、ここに国家公務員共済組合法の一部改正が本委員会に提案を

されてきておるわけであります。しかし、この国会で通過をいたすその理由があるといたしましても、そしに右へならえをする理由といふものではあります。なぜならば、片一方が問題の焦点が赤字であると言われましても、こちらの方には経済的に赤字となるのはございません。従来その支度過度に対しましては、原則として年險料の引き上げによってこれを補い、健全なる財政状態を続けてきたものではあります。この点については、共済組合審議会もこれを肯定いたしまして、政府案のごとき一部負担を導入することについては、その趣旨から賛成を乞がたい、こう言い切っているわけであります。言い切って、なおかつ審議会は、政府の機関として多少の遠慮もつて、かりにこれに右へならえをするにいたしましても、条件がある、その条件というのは、共済組合管掌の健康保険、船員保険、日雇い保険等の種の保険がどれに同調して改められるのであるならば、これはやむを得ないと言っているのであります。その条件をも相入れませず、どこにせよ済組合法の改正を右へならえをするということは、どうしても納得の行きないとと言わなければなりません。しかも、なおかつその理由としては、上お医者さんが困るのではないか、庄方は二十円、片方は十円では手続上困るのでないかという意見であります。その点については、肯定するにやぶさかではございません。しかしながら、その議論を整理しましてどこに改

正をすることは、新しい複雑さを増してくるのであります。と申しますのは、政府の答弁を聞きましても、結局この審議会の答申を、その点については、あとの方の部分を尊重いたしましたが、原則として本人に返しません。

どう言つております。取り上げられる病人のものに返すというのであります。ないしはそれをもいろいろな意見がござりますならば、健康な人に返しましよう、こう言うのであります。病人から取り上げて健康な人に渡すということとも、これまた理由の立たないことと言わなければなりません。そうでなければ、附加給付を作らうと言つております。附加給付を作ることに私は反対するものではございませんが、しかし作るにしても、今生活に困り、病床に立っている病人から取り上げてそれを作らうということは、これまた当を得ないと見えるのであります。どちらから考へましても、この共済組合法の修正といふものは當を得ないものだと私どもは信ずるわけであります。従いまして、私どもはこの根本であります健康保険法の改悪に対しましては、國民とともに断固として反対をいたすものであります。同時に、それに対して右へならえをして、ここに提案をされております國家公務員共済組合法の一部を改正する法律案に対しましても、その根本的な立場から、ここに反対の理由を明らかにいたします次第であります。

○石村委員長代理 これにて討論は終局いたしました。
これより採決に入ります。まず國家公務員共済組合法の一部を改正する法

律案について採決いたします。初めに、本法律案に対する黒金泰美君外二十五名提出の修正案について採決いたします。本修正案に賛成の諸君の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○石村委員長代理 起立多數。よつて修正案は可決いたしました。

次いで、ただいま議決いたしました修正案の修正部分を除いた原案について採決いたします。この部分に賛成の諸君の起立を求めてます。

〔賛成者起立〕

○石村委員長代理 起立多數。よつて

本法律案は修正可決いたしました。

次に、関税法等の一部を改正する法律案について採決いたします。お諮りいたします。本法律案を原案の通り可決するに御異議はありませんか。

〔異議なし」と呼ぶ者あり〕

○石村委員長代理 御異議なしと認めます。よつてさように決しました。

〔参考〕

○石村委員長代理 御異議なしと認めます。よつて本法律案は全会一致をもって原案の通り可決いたしました。

〔参考〕

○石村委員長代理 御異議なしと認めます。よつて本法律案は全会一致をもって原案の通り可決いたしました。

〔参考〕

○石村委員長代理 御異議なしと認めます。よつてさように決しました。

〔参考〕

○石村委員長代理 御異議なしと認めます。よつてさように決しました。

〔参考〕

○石村委員長代理 次に、金融制度調査会設置法案を議題といたします。

この際参考人招致の件についてお詫りいたします。本法律案審査のため、横瀬委員から、日本銀行總裁の出席を

がありますが、御承知の通り、從来とも日本銀行總裁は参考人の資格で出席を願っておりますので、明後十九日の委員会に、参考人として日本銀行總裁新木榮吉君の出頭を求めるよう取り計らいたいと存じますが、御異議はありませんか。

〔異議なし」と呼ぶ者あり〕

○石村委員長代理 御異議なしと認めます。よつてさように決しました。

次会は明後十九日午前十時から開会するどとし、本日はこれにて散会いたします。

午後零時十二分散会

〔参考〕

○石村委員長代理 国家公務員共済組合法の一部を改正する法律案について採決いたします。内閣提出、参議院提出)に関する報告書

○石村委員長代理 関税法等の一部を改正する法律案(内閣提出、参議院提出)に関する報告書

○石村委員長代理 「別冊附録に掲載」